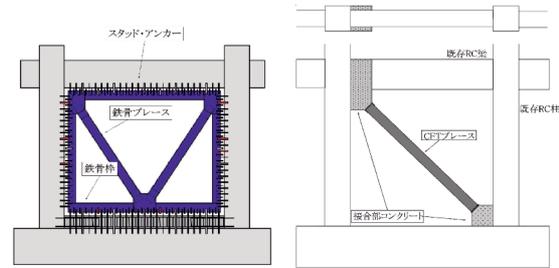


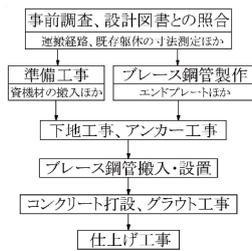
【技術の名称】 CFT-SS 補強工法 -圧縮抵抗型 CFT ブレース補強工法-	性能証明番号：GBRC 性能証明 第 14-20 号 性能証明発効日：2014 年 9 月 29 日 【取得者】 CFT-SS 補強工法開発推進研究会
---	---

【技術の概要】

本技術は、軸圧縮剛性と耐力が高いコンクリート充填鋼管を圧縮のみに抵抗させる斜材（以下、CFT ブレースと称する）として使用する耐震補強工法である。CFT ブレースの鋼管内部と接合部（CFT ブレースと既存躯体の間）に高流動コンクリートを同時打設し、CFT ブレースと既存躯体を一体化させる。これによりグラウト工事、型枠工事、施工時重量の軽減などの効果が得られる。CFT ブレースに発生する圧縮力は、主に支圧によって既存躯体に伝達させる。上部接合部および下部接合部に設けるエンドプレートは鋼管が負担する圧縮力を分散させることで接合部コンクリートの支圧破壊を防ぐものである。また、上部接合部の異形鉄筋はCFT ブレースと接合部コンクリートを付着力により連結させ、下部接合部の丸鋼はCFT ブレースに引張力が作用した時にCFT ブレースと接合部を離間させ、かつ位置を保持するためのニードルベアリングとして機能する。



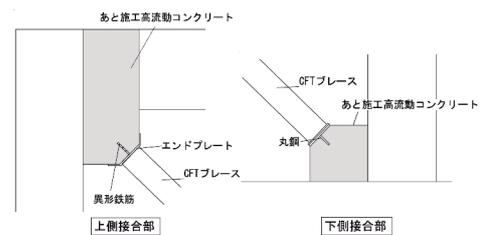
解図1.1-1 本工法の開発目的



解図 1.1-2 圧縮抵抗型CFT ブレースの施工手順

【技術開発の趣旨】

本技術は、CFT ブレースに圧縮力が作用していれば、これと既存骨組は圧着した状態になるので、スタッドやあと施工アンカーが不要となり、結果的に鉄骨柱が不要となる。つまり、CFT ブレースに圧縮力のみが作用するようにすれば、コストと工期の削減が期待できる。また、既存架構のはつり、孔明け工事の低減により施工環境の改善が期待できる。



解図 1.1-3 圧縮抵抗型CFT ブレースの接合部詳細図

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「CFT-SS補強工法 設計・施工指針」に従って設計・施工されたCFT ブレースと既存骨組からなる耐震補強架構は、同指針で規定している終局耐力および変形性能（耐震診断において用いる靱性指標F値）を有する。

【本技術の問合せ先】

CFT-SS 補強工法開発推進研究会 担当者：春藤 元宏 E-mail：shunto@sansei-inc.co.jp

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 4-3 国際箱崎ビル 3F

TEL：03-3639-5226 FAX：03-5641-7616